

ガヴリールドロップア  
ウト 豆まき&山登り

中三病の受験生

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ガヴリールドロツプアウトにありそうな話

コメントは批判万歳です。

チラッとみたい人におすすめ！

# 目次

ガヴリールドロップアウト 豆まき&山 登り	1
--------------------------	---



## ガヴリールドロツプアウト 豆まき&amp;山登り

「豆まき」

ピンポン

ガヴリール「誰だよ、こんな昼間っから。」

NHKか？パソコンでテレビ見てないっつーの！」

ガチャ

サターニヤ「鬼はく外！」

ヴィーネ「福はく内！」

ガヴリール「イタッ。何これ豆？」

ヴィーネ「今日は節分なのよ。こうやって、豆をまいて邪を払うの。」

ガヴリール「へえー。じゃあ、豆まくから帰れよ。」

ヴィーネ「なんでよ！あんたも豆まきに行くわよ！」

ガヴリール「家（うち）でネットゲしてれば、福が来るんじや…。」

ヴィーネ「そんなわけ、ないでしょ！」

「あれ？サターニヤ。ラファイは？」

サターニヤ「天界で鬼退治か、なんか、やってるらしいわよ。」

ヴィーネ「ほつ、本格的ね。」(苦笑)

サターニヤ「悪魔三人そろったことだし、行くわよ。」

ガヴリール「私は一応、まだ天使だと思いが…」

ヴィーネ「自信ないのね。」

「大きな家の前」

ピンポーン

ガヴリール「デジャブだな。」(苦笑)

ガラ…

サターニヤ「鬼は外！」

(ククク、これぞ私の作戦。あえて豆の無きそんな家に行き、豆をぶつける。

やり返されずに、先生に仕返しできるチャンス!!)

サターニヤ「鬼は外！福は内！」

ヴィーネ「ちよつと、サターニヤ！挨拶してからでしょ。」

サターニヤ「挨拶している間に、邪が逃げちゃうわ。」

ゴゴゴ

サターニヤ「鬼は外！福は内！」

ゴゴゴゴゴ

サターニヤ「鬼はく外！福はく内！」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

サターニヤ「ひっ！こっ、今年はこれ位にしてあげるわ。」(逃)

ガヴリール「本当の鬼はここにいたか……」

「山登り」

サターニヤ「夏休みー!!」

ヴィーネ「山ー!!」

ヴィーネ「バスー!!」

サターニヤ「山ー!!」

サターニヤ「山ー!!」(辺りに広がる霧)

サターニヤ「ちよっ、なによこれっ、霧雨じゃない！」

ガヴリール「うん。知ってた。」

「今回こそは、帰ろうっ！」

サターニヤ「なんでよ！」

ガヴリール「去年の海の後、筋肉痛で死にそうだったし。」

サターニヤ「この貧弱天使！」

ガヴリール「ラファイ。前みたいなことしたら、天界にチクるからな。」

ラファイエル「ん？何のことですか？」（ニコッ）

ヴィーネ「雨でも大丈夫よ。」

ガヴリール「えっ！なんで！」

ヴィーネ「ロープウェイで行くから、頂上は霧ないわよ。」

サターニヤ「歩いて登るんじゃないの？」

ヴィーネ「ガヴがすぐに諦めるでしょ。」

サターニヤ「まあ、いい。あなたたちより、早く登ってやるわ。」

ヴィーネ「地面滑りやすいから、気をつけてね。」

ラファイエル「私も、歩いて登りますね。」

サターニヤ「ふんっ。私に勝てるなんて思わないことね。」

ラファイエル「サターニヤさんの転んだ写真撮ってあげますね。」

サターニヤ「そんなの撮らなくていいわよ！」

く山の頂上く

ヴィーネ「ふう〜。空気がおいしいわね。」

ガヴリール「あいつら二人遅いな。」

ラファイエル「大変です！サターニヤさんが遭難しちゃって。」

ヴィーネ「えっ！どうしよう！サターニヤが！」

ワン！ワン！

ガヴリール「あつ。あの犬。サターニヤの犬じゃね？」

ラファイエル「ついて来いって言ってるんでしようか？」

ガヴリール「まあ。あいつだつて、

上に登れば頂上つてことぐらいは、知ってるだろ。」

その後、隣の山から、サターニヤの声が聞こえてきた。